

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○5月6日～

先週は週明けにドル／円が160円をつけた後、覆面介入と思われる動きがあり、一気に5円以上の円高が進み154円台をつけた後、158円まで戻しましたが、その後さらに円高が進み151円台をつけるなど1週間の動きとしては久しぶりに大きな動きとなりました。

断続的に介入を行っているという話もあり、荒い動きが続くリスクがあるため注意がいります。

乱高下している時はポジションをいつもの半分以下におさえるなど過度な取引は危険です。

先週月曜は日本が祝日だったため、まさかの介入は日本人にとってもサプライズです。

29日の介入は3兆円規模だと報道されていますが日銀データからこの日の介入額は5.5兆円程度という話もあります。

2日早朝にも介入を行い、1週間で10兆円程度の介入があったのではという推測もあります。

ただ、神田財務官は介入の有無についてはコメントしないと言っているため真偽は不明な部分も多く、実際のところはどれだけの介入があったのかはわかりません。

2022年も断続的に介入しましたが全部で9兆円程度の介入があったということで、今回の介入が2022年の規模を超えてくるのかどうかはわからず、中期的な予測が難しい状況です。

また、先週は米国でFOMCがありました。利下げ時期は秋以降との予想が多く、株価の動きも不安定になっています。

4月は日米ともに大きく株が下落しているため、この流れが5月も続くかどうか重要です。

また、先週末に発表された米国の雇用統計は予想よりかなり弱い結果となったことで、株価が急激に戻って終わっています。

株も為替も右往左往するような動きが出て、トレンドがわかりにくい状態ですが為替相場は介入を狙って、4-5円程度下がったところを買う動きが出やすく、結果的にドル／円は介入が絶好の買い場になるという話もあります。

## ● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週のドル／円は週明けの160円をつけた直後に急落し、154.5円をつけ、その後158円あたりまで戻した後に今度は153円あたりまで急落、その後156円あたりまで戻した後に151円台まで下げるなど安値を更新する動きになっています。

断続的に介入が入っているとの話もあるし、利益確定の売りが出ているという憶測もあり、買っていくにも不安のある動きです。

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

テクニカルで見ると年初の安値の140円を起点にした上昇トレンドは、150円を割り込んでくると崩れてくる形になってきます。

週足のトレンドはまだ上昇ですが週足トレンドが崩れてくると危険なので、日足だけでなく、週足のトレンドも意識しながら取引したいです。

今週は150円あたりで下値を固めることができるかがポイントになってきます。

上値は156円あたりのレジスタンスを超えるまでは下落の流れが続く可能性があります。

下値が150円を割り込んできた場合は、下げ止まるまで様子見でもいいかもしれません。

荒い動きが続いているので、リスク管理をしっかりしていきたいです。

### <気になるクロス円>

クロス円もドル/円の乱高下を受けて、同じように大きく上下に動きが出ました。

ユーロも171円とリーマン・ショック前の高値超えの動きが出た後は、165円を割り込むところまで下げています。

ドル/円のトレンドが円高に転換してくるとクロス円も流れが変わってくる可能性があり、ドル/円の動きと合わせて見ていく必要があります。

また、株が5月も下がり続けるとリスク回避的な動きが強まり、下がっていくリスクもあります。

今週はトレンドに変化が出る可能性もあるので、テクニカルを見ながら、下げ止まりを確認するまで買いも慎重になりたいです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

### <今週のファンダメンタル？>

日本では3月貿易収支、4月景気ウオッチャー調査などがあります。

米国では前週分新規失業保険申請件数、5月ミシガン大学消費者信頼感指数、4月月次財政収支などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで4月サービス業PMI(改定値)、ドイツで3月製造業受注、3月鉱工業生産、ユーロ圏で3月卸売物価指数、3月小売売上高、ECB(欧州中央銀行)理事会議事要旨などがあります。

ほかには、オーストラリアと英国で政策金利、英国で英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨、1-3月期GDP(速報値)、3月GDP、カナダで失業率の発表などがあります。